

医食同源：消化管免疫からつくる健康

年齢軸生命工学研究センター 免疫恒常性チーム 辻 典子（つくばセンター）

消化管は、からだの過半数の免疫細胞が集まる最大の免疫器官でもあります。消化管での免疫は、IgA抗体の産生などによって病原菌を排除しながら、安全な食べ物や腸内細菌に対してはアレルギー反応をおこすことなく受け容れて、健康の維持増進に大きな役割を果たしています。

辻さんは、消化管免疫のメカニズムを解明し、その機能を高める技術を開発することに取り組んできました。例えばヨーグルトなどで身近なプロバイオティクスはそうした機能性食品の代表的なものです。辻さんは乳酸菌成分がどのような免疫細胞に働きかけ、どのような免疫シグナル経路を通じてからだの恒常性と生体防御機能の維持・強化に働いているのかを明らかにしつつあります。さらに消化管に特徴的な、炎症抑制機能をもつ免疫細胞を見だし、それらの働きが加齢とともに変化することを明らかにしています。



研究仲間



辻さんからひとこと

“医食同源”の再発見は、食べるという日常的な方法で健康寿命を延ばし、質の高い生活を持続し、医療費の削減にも直結する可能性をもち、これからの予防医学・バイオ健康産業の方向性のひとつだと思います。この数年で急転、消化管免疫は世界的トレンドとなり、研究の競争ではちょっと大変ですが、明確な科学的根拠に基づいた、おいしく楽しく続けられる疾病予防・治療法の実現に向けて技術開発が加速される好機ですので、広く世界を見回しつつさらに日々の努力を重ねたいと思います。

表紙

上：一般公開（つくばセンター）茂木 健一郎さんの講演（p28）

下：ヤッコカンザシ遺骸群集の断面（p22）

産 総 研
TODAY

2008 September Vol.8 No.9

（通巻92号）

平成20年9月1日発行

編集・発行
問い合わせ

独立行政法人産業技術総合研究所

広報部出版室

〒305-8568 つくば市梅園1-1-1 中央第2

Tel : 029-862-6217 Fax : 029-862-6212 E-mail : prpub@m.aist.go.jp

ホームページ

<http://www.aist.go.jp/>

● 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。● 所外からの寄稿や発言内容は、必ずしも当所の見解を表明しているわけではありません。